

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
学校各種学校連合会(福田益和理事長)はこのほど、今春の専門学校入学者の進学意向を探った「2015全国専門学校共同入学者調査」を発表した。この調査は、専門学校入学者による進学活動の実態把握と、専門学校教育の質向上などを目的に新学期開始前後の3~5月に実施したもので、専門学校入学者の約4・1%に当たる全

国80校1万732人の学生を対象に86項目について調査を行った。2009年度からこの調査は毎年実施され、今年度は7年目を迎えた。各専門学校で入学前後の時期に行われたオリエンテーションなどを利用して調査を実施した。主な内容

学生は、「非常にそう思う」「わりとそう思う」という積極的な評価を合わせると、ほぼ入学者の9割近くを占めている。「ややそう思わない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」は合わせて入学者の0・9%。

【入学者の検討プロセス】
入学者は学校の「学習設備」「先生の熱意」「就職支援体制」などを高く評価していく、それぞれ9割前後を占め、入学後に自分自身が学ぶ環境や就職支援体制などに強い関心を持つている。

【入学校を何で知ったか】
入学校を知ったきっかけは「親やその他の家族」が最も多く決めていた(34・8%)、「ほとんど決めている」(32・2%)、「はつきり決めている」(20・7%)で、入学者のほとんどは何かしら自分の将来の仕事をイメージして専門学校に入学して

大阪府専修学校各種学校連合会

今春入学者の進学動向調査

【入学校を勧めたいか】
「入学した専門学校を勧めるか」を聞いたところ、「非常にそう思う」「わりとそう思う」を合わせると7割を超え、入学校に対する評価の高さをこの調査から読み取ることができる。

【学習設備・教員・就職に対する評価】
入学者は学校の「学習設

備」「先生の熱意」「就職支援体制」などを高く評価している。それが大学や短大を進学先と

なっている。

【入学校に興味を持った理由】
入学校に、進学先として興味を持った理由で最も多かったのは「オープンキャンパスなどの「入学校主催のイベント」(26・4%)、次いで学校が発行する「パン

2015年度 全国専門学校共同入学者調査

掲載記事

企画：一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

企画・開発・調査分析：(株)応用社会心理学研究所

「専門学校新聞」

2015年10月15日付 第7面に
掲載されました